

1 調査名称：外環と周辺のまちづくりに関する調査委託

2 調査主体：東京都

3 調査圏域：東京都市圏

4 調査期間：平成13年度～平成25年度

5 調査概要：

東京外かく環状道路（外環）は、3環状9放射の一翼をなす道路で、放射方向の幹線道路を相互に連結して都心方向に集中する交通を円滑に分散・導入するとともに、都心に起終点を持たない交通をバイパスさせる等の役割を果たす。平成21年5月には、関越道から東名高速までの約16kmについては、第4回国土開発幹線自動車道路建設会議の議を経て、事業化された。

本調査は、外環本線の地下化を踏まえ、外環の地上部街路である外環の2について、必要性やあり方などについて広く意見を聞きながら検討を進めることとしており、その検討に必要な調査を実施するものである。

## I 調査概要

### 1 調査名

外環に係るまちづくり等に関する調査委託

### 2 報告書目次

第1章 交通量に関するデータ作成

第2章 外環周辺道路に関する検討

第3章 まちづくりの検討

第4章 地上部街路のあり方に関する検討

第5章 外環のネットワークに関する検討

3 調査体制

該当なし

4 委員会名簿等：

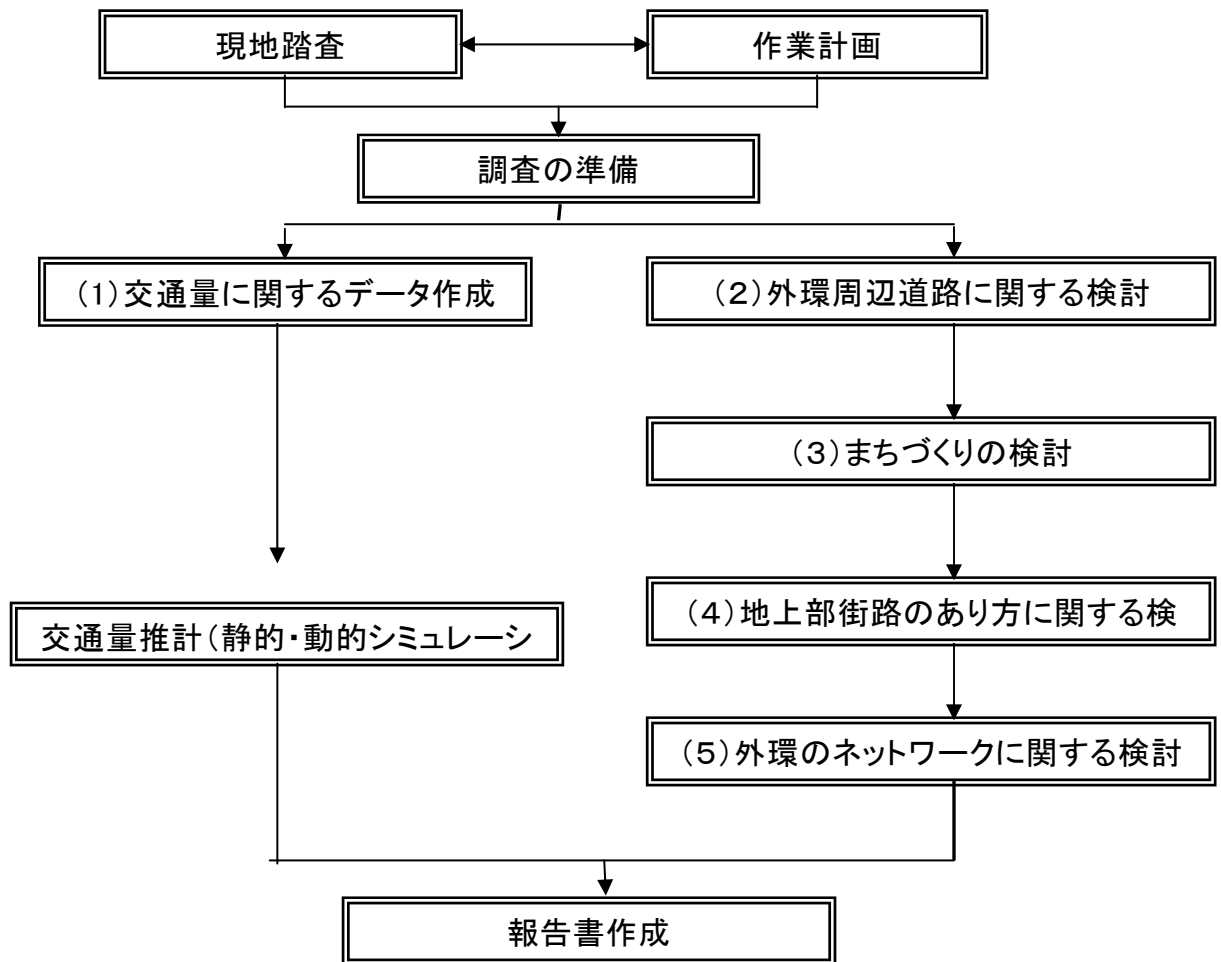
該当なし

## II 調査成果

### 1 調査目的

本業務の目的は、外環に関連したまちづくりや道路計画について調査・検討を行うとともに、関係機関調整・住民説明に係る資料を作成するものである。

### 2 調査フロー



3 調査圏域図



## 4 調査成果

### (1) 交通量に関するデータ作成

#### ① 交通量調査

将来交通シミュレーションを行うため、現況把握の目的で交通量調査を行った。  
エリア内の主要60交差点で朝ピーク(7:00～10:00、主要交差点 3 箇所では24時間調査)の方向別交通量と、30交差点で信号現示、60断面でナンバープレート調査を行った。調査結果から、シミュレーションの現況再現のため各リンクの方向別交通量、旅行時間、ODを作成した。

#### ② 将来交通シミュレーション

将来交通シミュレーションは AVENUE(東京大学桑原研究室開発)を用いて、現況再現を行い、平成32年地上部街路あり、なしの2ケースについて演算を行った。

### (2) 外環周辺道路に関する検討

対象となる 練馬区、杉並区、武蔵野市、三鷹市における総合計画、都市計画マスタープラン、緑の基本計画、土地利用計画について整理を行った。

### (3) まちづくりの検討

#### ① 現況の評価

現況の歩行者・自転車交通量及びこれらに対応した歩行・通行空間からは、大きな問題点は無いと評価される。

#### ② 将来の評価

将来の歩行者・自転車交通量を予測したものはないが、現況量を維持するものと推察される。

#### (4) 地上部街路のあり方に関する検討

##### 【検討概要】

外環の地上部街路の大泉 JCT～東八道路までの区間においては、

- ① 「現在の都市計画の区域を活用して道路と緑地を整備」
- ② 「都市計画の区域を縮小して車道と歩道を整備」
- ③ 「代替機能を確保して都市計画を廃止」

の3つの考え方を公表している。

本検討では、上記の①、②案をベースに、地上部街路約9kmにおいて、当該地域の状況や地形等を考慮した上で、各地域（練馬区、杉並区、武蔵野市、三鷹市の4区市）に整合した断面構成について「交通」、「防災」、「環境」、「暮らし」の4項目にて比較検討を行った。

#### (5) 外環のネットワークに関する検討

外環のネットワークについて地域の状況や関連計画を把握・確認した上で、地域の課題を整理し、その要因を明確にし、複数の課題解決案を作成した。また、整備効果として考えられる項目を整理しそれぞれの整備効果を定量的に算出した。